

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100083		
法人名	ひかりの里 有限会社		
事業所名	グループホーム ひかりの里(1階ユニット藤・2階ユニット桃)		
所在地	岡山県岡山市南区中畦187-8		
自己評価作成日	平成30年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3390100083-008&PrefCd=33&Versi
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成30年3月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひかりの里は、岡山市南区郊外に立地し、田園の中、静かな環境に恵まれています。なかとう整形外科をバックに、デイサービス 有料老人ホームと併設し、全て渡廊下で繋がっており、他の部署との交流も頻繁にあり内容の濃い介護サービスができる体制になっています。何より医療との連携にて早急な対応が図れ、利用者様、ご家族からも、信頼され安心して過ごして頂いています。地域包括ケアネットワークの中でひかりの里が掲げる介護・医療・地域の融合を目指し交流研修も行っていきます。利用者様が住み慣れた地域で、家庭的な暖かい雰囲気の中『その人らしく暮らす』ご利用者の思いを汲み取り1人1人しっかり寄り添い、心身の状態を常に考え、日々の生活に満足して頂けるように 取り組んでいます。地域行事には積極的に参加させていただき、又ボランティアの方による歌あり 踊り コンサート演奏 小 中学生の受け入れ訪問では、笑顔あふれる楽しい時間を過ごして頂いています。ひかりの里の理念でもあります『誠実 希望 愛 笑顔』をモットーに頑張っているグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームへ少し早く着いた私達は、駐車場ぐるりと見渡せる法人の諸事業所を確認していた所、デイサービスの利用者と職員かと思われる方々と出合った。挨拶を交わしながらこのホームの理念「医療と介護と地域の融合を目指し・・・」の文言と、何年も前にあの一帯を見学させていただき、この地域の福祉面の安心・安全を確認した事を思い出した。十年選手となるこのホームもあらゆる波を乗り越え、様々な経験もしてきた。現在1F・2Fの利用者の状態の違いや、新入職員の確保の難しさ・多様な症状がありその特性と対応の難しさ・その他色々な壁に阻まれながらも、職員合は日々奮闘して、「何よりも、少しでも多く皆さんに笑顔になっていただきたい」と願っている。利用者はもちろん、職員も健康でやりがいを感じ、大家族のようなこの親密さが今後も続く日々でありますようにと、私も心から願っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目に触れる場所に事業所の理念を掲示し、日々のケアの中で意識をもって、サービスの提供に努め取り組み実践している。 又オリエンテーションにおける説明とアンケートの実施、カンファレンス等にての意識確認に努めている。	ユニット毎にモットーがあり「利用者に寄り添った会話」「利用者が一番に考えた介護」等を職員間で意識しながら、その人らしくを大切に、ゆっくりのんびりとした穏やかな生活の実現に向けて、職員は日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。 事業所として、地域の方々 多種多様の方との交流を大切にしている。定期的なボランティア 小中学生 慰問 来訪、小学校の運動会・発表会の見学、初詣など 興除神社へ年2~3回の参拝等により交流を図っている。	大勢の参加があり恒例になっていた夏祭りを、他県その他施設で起きた事件をふまえて今年は中止した。中学生の職場体験の受け入れもしており、3日間、2名の生徒が来てくれ、利用者と掃除やイベントを一緒にしながら交流をした。日頃から地域との繋がりも深い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において『認知症ケア』の実例をもとに認知症の勉強をさせて頂いている。地域行事に入居者と一緒に参加させて頂き、認知症の方の理解を深めて頂く機会としている。中学生の職場体験高校生のインターシップ受け入れ、認知症の方の理解と説明をさせて頂いている。地域包括ケアネットワークで認知症を広く知ってもらい介護と地域医療の連携に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に多種多様な方の参加をして頂き、意見 要望等意見交換の場となっている。 議事録を玄関に置き、いつでも、だれでも閲覧できるように開示している。	定期的に会議を開催して、ホームの運営状況等を話し合い議題について協議したり、日々の活動の写真を見ながら和やかな談話をしている。市の担当者が「どうやってストレスを解消するのか」と言ってくれた事が嬉しかったと職員から聞いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、意見 アドバイスを頂きながら、質の向上につながるように、常に連絡を取り、施設運営に努めている。	運営推進会議に市の担当者や地域包括の職員の参加がありホームの現状をよく理解してもらっており、情報交換や意見交換をしている。6月には市の実地指導があった。何かあればその都度、相談して助言や指導をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス等にて、マニュアル作成ファイルを解説とし、勉強会を行っている。職員の理解と認識を深めている。又議事録に残し、職員間での理解の共有に努めている。	玄関は安全を優先して施錠をしているが、業者が出入りするドアから出て、非常用のらせん階段を降りて離脱した人の時には、近所の人にも協力してもらい、職員で捜して無事ホームに帰った例もある。離脱対応マニュアルを作成し職員間で共有している。	「外に出たい」と願う気持ちを利用者が持つのは、ごく自然な事と思う。しかし、一人で外に出る事は家族もホームとしても、本人も困る事になる事が多い。命にかかわる事例も考えられるので、十分な対策は講じておきたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等にて、マニュアル作成ファイルを解説とし、勉強会を行い職員の理解と認識を深めている。又議事録に残し職員間の共有に努めている。日頃より職員との会話の中で、変化に気を付けるよう意識した取り組みに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている方もおられる施設内で資料を基に勉強会の機会を持ち、知識 認識が深められるように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に疑問や不安な点、困っている事などをお聞きし、外部評価結果をお渡しし、重要事項説明書の丁寧な説明をさせて頂き、お互い納得した上で、サービス提供の開始できるように努めている。その都度において、問題点が生じた場合、誠心誠意納得して頂けるまで十分な説明を行い、理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には内外部への相談窓口を記載、アンケートの実施とともに運営推進会議 面会時等に、意見が頂ける環境に心がけている。可能なことは運営に反映できるように努めている。	年度当初に実施している「入居者・家族アンケート」は、集計結果を玄関に置いて開示している。毎月家族に送付している手紙の中の利用者のコメント欄がとても好評であり家族から喜ばれている。また、面会時には状況報告をして意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を通じて、参加者が発言できる機会を設けている。またその中で代表者の考え、方針等を職員に伝えている。日々の中で意見や提案がいつでもいえる柔軟な体制や関係が図れる環境に努めている。行事 イベントは職員が主体性をもって、企画 立案を行っている。	ミーティングや申し送りノートで情報の共有をし、職員間で意見交換をしている。職員は20代～60代と年齢層も幅広く、男性職員が3名いる。職員間の連携もよく取れており、意見や要望が言いやすい体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と管理者は常に報告連絡相談は密に図っており、代表者の方針は職員へ、職員の思いや意見はその都度代表者へ伝えている。職員は、利用者担当を決め責任感ややりがいを持つような工夫に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修のお知らせ掲示にて参加の促しに努めている。 カンファレンス時、必要に応じて資料をもとに勉強会と介護技術取得を図るため現場研修に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来るだけ研修に参加することで同業者との情報収集に努め、情報交換 意見交換ができるように努めている。その時知り得た情報は、現場に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に訪問面談調査を行い情報収集に努めアセスメントを行っている。本人の状態 意向等を伺い、不安や困っていることあれば丁寧な説明にて安心感の構築に努めている。本人様の様子を見ながら入居後も安心して過ごして頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者家族の困っている事 思い 要望を伺い信頼関係の構築に努めている。どんな小さなことでも相談 助言ができる雰囲気にも努めている。本人が安心して暮せれるような、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームはどのような場所であるか、説明し理解をして頂いた上で、ゆっくりお話を聞きながら、ご本人 家族を支援していく体制づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできることを見極めながら、本人の能力に応じて一緒にお手伝いして頂いている。日常生活の中で、掃除 洗濯 食べた後の片づけなどで、利用者同士の談話ふれあいにて、家庭的な雰囲気を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に行事、運営推進会議等にできるだけ参加していただけるよう声掛けに努めている。面会時、毎月のお便利にて本人と家族との繋がりを大切に思っていたけように、家族と連携を密に取りながらご本人様と一緒に支えていける関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方ボランティアの方等また他の部署でのイベント、ご家族を交えてのイベントの計画、行事参加にて、顔見知りの方とのふれあう機会 交流に努めている。ご家族 ご近所の方の訪問は居室 リビングにてゆっくりお話して頂ける雰囲気 環境に努めている。	同敷地内の有料施設からGHIに移行した人やデイサービスを利用していた人にとっては、その職員や利用者が馴染みの関係であり、運営推進会議に参加してくれた奥さんと久しぶりに会った人もいる。家族の絆や馴染みの関係を大切に、面会に来てもらえるような工夫や環境作りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座る位置も、だいたい決まってはいるが、利用者同士の会話ができるように、居心地よく落ち着いて過ごせるように配慮している。又職員が利用者間でレクリエーション行事を通し利用者同士が良好な関係が保てるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時 他の施設への紹介と移動時には、情報提供書と説明に努めている。退所後においても相談があれば、その都度に応じたアドバイス 助言等もさせて頂いている。転所先への見舞い、面会に伺ったり、ご家族さまが来てくださったり連絡も取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドを踏まえ、普段の会話の中から思いや意向をくみ取ったり、つぶやき、表情、仕草等でも感じ取っている。それでも困難な場合にはご家族の協力を頂いている。	「ここでの生活をどのように過ごしたいか」本人の意向を確認するように努め、難しい場合は日々の会話、関わりの中からその人の心の内を推測してニーズを把握するようにしている。「いつもと違う」「きらりと光る」利用者の発言を拾い上げ、記録や家族へのたよりに掲載している。	各種記録や家族へのたより等に、利用者本人の言葉がリアルに記録され、ケアプランにつながったり家族に好評だったりしていると感じている。今後この傾向を進め、ケアやその人との会話に活用して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人 家族から生活歴 既往歴 環境などの情報をもとに、又これまでサービスを使われていた場合、ケアマネ 相談員からの情報収集を得て、本人主体として、ホームでも安心して過ごして頂けるような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状態の観察に努め、必要に応じては記録に残す。確実な申し送り カンファレンス等にて現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等にてケアマネを中心に利用者担当が、ご本人 ご家族の意向確認の上 ニーズの把握に努めケアプラン作成としている。必要に応じて定期の評価 見直しとしている。また関係者にも連絡相談として実践に反映できるように努めている。	介護記録の書き方、モニタリング、アセスメントの記入の仕方・考え方、ニーズの捉え方等を勉強して、本人にとってどのようなサービスが必要なのか、ケアプランの立て方を職員間で話し合っている。個々の状態の変化に合わせて、その都度、現状に即したケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの内容、状態変化など記入。異常の早期発見に努めている。申し送りノートの活用にて職員間の共有を図り、必要に応じてはカンファレンス 申し送りにて検討見直し改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の思いや意向に添った援助ができるようご家族への報告連絡にて理解と協力が得られるように努めている。また他の部署との協力も得られるように、普段からの関わりも大切にしている。入退院の援助や可能な事は叶える事ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事 イベントへの参加。小中学生の受け入れての交流に努めている。また学生 ボランティアによる太鼓、ギター演奏、歌、踊りを一緒にすることで楽しみとしている。利用者作品 写真掲示にてお互い楽しめる環境に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご家族の要望の確認としている。病院と併設していることで、利用者 家族様と良好な関係が築け安心して頂いている。専門診療必要となれば専門医への紹介と受信にての診療体制をとっている。	併設の母体病院を受診している人が多いが、緊急を要する時には医師の指示のもと、しかるべき医療機関に紹介し、職員が同行している。また、院長の方針で往診ではなく、外来を受診する形を取り経済面への配慮をしていると聞いた。オンラインで繋がっており、院長や看護師がいつでも駆けつけてくれるので安心出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携をしているので、日常の健康管理等の相談や指導の協力は得られている。何かあれば、報告 連絡 相談の上、早急な対応が取れている。(他の部署それぞれに、看護師が配置している)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療 介護での情報提供書の作成と提示としている。 入院中できるだけ面会に行くことで利用者様に安心して頂いている。互いに情報提供書を交わし医療関係者との日常生活での情報交換や相談にも応じ、スムーズな入退院となるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期医療を視野に入れ、ホームで出来る事、出来ないことを明確にして、ご家族への説明や希望を伺い、状態に応じての医師やご家族と相談の上、方向性の共有ができるように努めている。	最近101才の人の看取りをした。家族が数日間ホームに泊まり、穏やかな人生の終焉に立ち会い、最高の看取りが出来たと職員から聞いた。過去にホームで看取りをした人の家族が「ここでのケアがとても良かった」と言ってくれて、今はその人の娘さんが入所しているケースもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、定期的に訓練を行い、冷静な対応と実践力が身につくように努めている。 消防署の講習会 上級救命講習等の参加に努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等のマニュアルは備えている。定期的に災害時(日中、夜間想定)の訓練も行い、避難経路や自動通報装置の使い方などの確認を行なっている。地域の方 ご家族の方の参加呼びかけ、協力もお願いしている。	暴風及び激しい雨が降り、市より「避難準備情報」発令があったという設定で、階段を使用して1階の利用者を2階の安全な場所に避難誘導する訓練をした。運営推進会議の時に備蓄品の非常食の乾パンを使った料理をして参加者と試食もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないように、プライバシーに配慮した援助に努めている。性格 生活習慣を把握しその人その人に応じた 関わり方 声掛けを工夫とした援助に努めている。	人生の先輩として尊重する態度を崩さず、状況に応じてその人に合った対応をし、言葉遣いにも気をつけている。個性の強い人が多いユニットでは、その人のペースで自由に過ごしてもらっている。個人情報保護の観点から居室に氏名の表示はないが、利用者は自室が認識出来ていると聞いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	『本人はどうしたいのか』本人主体となるように、会話の中から引き出せるように心がけている。自己決定ができるように働きかけている。言いやすい環境や関係づくりにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活すべての場面において、ご本人の思いを尊重とし、自分らしく生活できるように工夫とした声掛け援助に努めている。一日の日課はあるが、他の問題により時間配分できず、介護者側の都合になってしまう事もあるが、可能な限り、思いに添えるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容道具を整え、フローア洗面台でいつでも整えられるようにしている。 本人の意向確認をしながら好きな服 着たい服など一緒に選んだり、訪問カットで好みの髪型にして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設管理栄養士の元での食事提供ではあるが季節行事 イベントの時は特別メニューで楽しみある食事となっている。食べた後の片づけ等は一緒に行ってもらえるよう努めている。 おやつ作りは、月1～2回利用者と一緒に作り食べて楽しんで頂いている。	連絡通路で繋がっている法人施設の厨房から毎食料理が運ばれてくる。検食簿がありその日の当番が検食して感想を記入している。その人の状態により、ミキサー食や刻み食で介助が必要なケースもあるが、殆どの方は自分の箸やスプーンで普通食を摂取する事が出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事 水分チェック表への記入にて把握に努めている。食事形態の工夫 おいしい飲み物等、必要に応じては代替えにての対応にも努めている。 個々の嗜好 制限もあるが健康管理の範囲内であれば 尊重した援助に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、様子見ながらできるだけ自分で行ってもらい、出来ていない部分のみ声掛け援助とし、清潔保持に努めている。口腔内のトラブルある時は、訪問歯科との提携にて、ご家族に報告連絡相談の上、随時行ってもらえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にてパターンを知り、その人その人に合った援助に努めている。何気ない行動仕草等の把握に努め、トイレでの排泄 排泄の自立に向けて援助の工夫に取り組んでいる。	排泄が自立で布パンツを維持している人もいるが、リハビリパンツやパット併用の人が多い。出来る限り布パンツで頑張ってもらい、紙オシメは重度化した状態になり、最後の時のみ使用するようになっている。夜間用にポータブルトイレを置いている居室もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常的に体を動かしたり、十分な水分を摂ってもらうよう声掛けに努めている。時として起床時の牛乳、ヤクルトを飲んでもらったの自然排便の促しに努めている。必要に応じては、医師に報告指示を受けての下剤服用にての排便としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人希望に応じては毎日でも入れるようにしている。希望されない時には、様子を見ながら又タイミングを図っての声掛け工夫援助に努めている。清拭 足浴 一般浴が困難になった場合、隣接の有料老人ホームの特浴にての対応とさせて頂いている。	週3回を基本にしているが、最低でも週2回は入浴出来ている。全員浴槽に入れているユニットもあるが、二人介助5名と一部介助4名のユニットは夏はシャワー浴が多い。拒否が激しい人の対応にも工夫を重ね、足浴・清拭・ドライシャンプー等いろいろ試しているが、最近、拒否者が増えたそうだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に応じて、希望された時には時間にとらわれず休んで頂いている。が夜間の安眠の妨げになるようであれば、声かけリビングで過ごして頂いている。夜間眠れない方は居室にて、話を聞いたり お茶を飲んでもらいながら、安心しての入眠の促しに取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師 看護師の指示のもと、報告 連絡 相談を密に取り、個々の把握に努めている。職員は各自薬の副作用や用法 容量はファイルにての確認に努めている。薬の変更 追加があった場合状態の様子観察に努め医師 看護師への報告とし、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を踏まえて、趣味 嗜好 特技等考慮して、日常生活場面において、発揮できることの発見に心がけている。本人の無理のないように、その方の能力や役割が楽しみにもなり、満足して頂けるレク、プログラムの提供を考え参加促しに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の希望にて、散歩 外気浴 他部署等の交流にて気分転換が図れるように心がけている。又ご家族の協力を得ながら初詣、お墓参り 外食 外泊等もして頂き、個々の希望にできるだけ添えられるように努めている。	季節毎の行事の計画を立て、四季折々の自然を楽しむ非日常的な外出をしている。花見やドライブ等は良い気分転換になっており、天気の良い日は日光浴や外気浴をしたりホーム周辺を散歩している。家族の協力もあり、お彼岸には墓参りに行ったり、外食をする等、個別支援にも力を入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームで管理している。本人要望あれば能力に応じて、ご家族了解のもと、少しのお金は持っている。自動販売機にて好きな飲み物、訪問販売でパン・ヤクルト等を買っている。必要な時にお出し、本人の要求に応じている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも使用できるようにはしている。ご家族の了解のもと要望者には固定電話のある所まで付き添い、援助としている。お手紙 はがき等出したい希望あれば付き添い援助に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関 リビングに利用者様が作成した作品 書道ちぎり絵 写真等を掲示している。利用者様が、快適に過ごせるように、室温管理 環境整備に努めている。玄関 リビングに、愛着あるもの季節の花も飾っている。	日当たりの良い和室の窓際で椅子に座り日向ぼっこをしている人は、そこがお気に入りの定位置になっている。1Fのリビングでは風船パレーを楽しんでいる人達や創作活動をしている人で楽しい雰囲気がある。2Fはマイペースで過ごす人が多く、一人瞑想に耽っている人もいて、それぞれが自由に過ごしていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた空間の中、時には一人でゆっくり過ごせる場所として、和室に、椅子 ソファを置き、利用してもらっている。又リビングの長ソファでは気の合った人同士が、談話ができるよう工夫している。個人やグループで過ごす時間も大切にできるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の理解と協力を得て、テレビ タンス 机 椅子 愛着服等、馴染みある物を持ち込んで頂き、居心地よく、落ち着き安心して過ごして頂ける環境に配慮している。	お気に入りの家具や小物類を持ち込み、自分の好きなように暮らしている人やいつでも帰れるように荷作りをしている人もいる。それぞれの個性を尊重し、その人が生活しやすく、気持ちよく過ごせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ 居室は 目印等にて場所がはっきりわかるように、工夫している。リビング周りには、手すりを付け、危険と予測される物の排除、安全な移動ができるように配慮した環境整備に努めている。他の部署に行く際も、渡り廊下になっている為、雨の日にも安全な移動ができています。2階渡り廊下には非常用のすべり台も取り付けられている。		